

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3087 号	氏 名	荒井 奈々
論文審査担当者	主査 本田 一穂 教授 副査 九島 巳樹 教授 副査 角田 卓也 教授		
(論文審査の要旨) <p>インターロイキン 3α 受容体(CD123)は造血細胞の増殖と分化に関与する細胞表面タンパク質で、正常な造血細胞では CD123 の発現は全くないか僅かにある程度である。CD123 陽性の急性骨髄性白血病(AML)は生存率が劣ると報告されているが、既報の大部分はフローサイトメトリーで CD123 発現を解析しており、ホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)による骨髄標本での免疫染色結果と予後との相関性を示した研究がない。荒井らは AML 初診時の骨髄病理標本を用い CD123 発現と臨床的予後の評価を行った。2008 年から 2015 年に当院で AML と診断された 48 例を対象とし、骨髄芽球に CD123 免疫染色を行い 10%以上陽性の場合を CD123 陽性 AML とした。CD123 陽性 AML は 29.1%であり、CD123 陰性 AML と比較し有意に生存期間の短縮が認められた(P=0.036)。本研究により、骨髄検体の免疫染色法での CD123 発現も予後の指標として有用な手段であることが証明された。</p> <p>これらの知見は、AML の予後予測に関する CD123 免疫染色の臨床的有用性を示した高い学術的価値を有し、学位論文に相当すると判断した。</p> <p>論文題名 : Impact of CD123 expression, analyzed by immunohistochemistry, on clinical outcomes in patients with acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病の骨髄病理免疫染色法による CD123 発現と臨床予後の検討)</p> <p>掲載雑誌名 : International Journal of Hematology, 2019 年 (掲載予定)</p>			

(主査が記載、500 字以内)